

## 賀川豊彦の畏友・武内勝氏の所蔵資料より（目次）

「目次」のまえに 2009 年の「賀川豊彦献身 100 年事業オフィシャルサイト」で連載したおりの「賀川豊彦のお宝発見」第 1 回に収めた以下の文章を、ここに再掲しておきます。

#

#

武内勝氏は明治 25 年生まれであるから賀川豊彦より 4 歳年下である。賀川が神戸の「葺合新川」での新しい生活を開始した明治 42 年（1909 年）12 月のほぼ最初期の時から歩みを共にした「生涯の友」として知られる。ご子息の武内祐一氏のもとに大切に所蔵されていた貴重な資料が奇しくも「賀川献身 100 年」を記念するこの年に閲読を許されることになった。

資料はふたつの箱に収められ、ひとつには「賀川先生の手紙」と書かれた箱で、武内宛の賀川の書簡およそ 120 通などが収められ、ひとつは「武内勝の手帳」33 冊ほか写真や重要書類、珍しい下書き原稿などが入っていた。お預かりしたその時から当方で勝手に「お宝の入った玉手箱」と名づけ、いま少しずつ資料の整理に当たらせて頂いている。

武内勝氏に関しては、1973 年に村山盛嗣氏によって編集された「賀川豊彦とそのボランティア」（本年末「献身 100 年記念」の一つとして再版予定）で武内氏の神戸イエス団教会での貴重な講演記録が残されているが、これまで「武内勝の世界」を記すものは極端に少なく（なぜか「百三人の賀川伝」にも寄稿がない）、今回の「お宝発見」で、神戸を中心とした「イエス団」の歩みも、その全容がいくらか明らかになるのではないかと期待されている。本年すでに「中国史の研究」（朋友書店）で知られる浜田直也氏の労作として「神戸イエス団」の 1909 年から 1941 年までの歩みを纏めた第一次草稿が完成しているが、今回の「玉手箱」は、それらを肉付けする第一次資料として活かされることが期待されている。

ともあれここでは少しずつ「武内勝の手帳」から自由に書き写し、「武内勝の世界」を想起させていただくことにする。この第 1 回は、昭和 27 年の手帳の中に残されている「イエス団」でのお話のメモである（同じお話を四貫島でもされたようである）。なお武内氏のメモは殆ど句読点がないが、便宜のため句読点や改行をしておく。（補記私にとって武内氏は 1966 年 3 月、神戸イエス団教会の就任面接で一度お会いし、そ

の折かけていただいた温かい言葉のひとことが忘れがたく（これについては拙著「賀川豊彦の贈りもの」（2007年、創言社）に収めている）、その後忽然と武内氏は生涯を閉じら武内氏のご葬儀の裏方が初仕事であった。以来ずっと私にとって「武内勝の世界」は是非とも親しくお訪ねしてみたかった「お宝」であった。（2009年5月5日）

#

#

(1)

- 第1回 補正版の「序」
- 第2回 毎日新聞1963年6月6日掲載「一粒の麦は生きている—50年なお救貧運動」
- 第3回 賀川が米国留学先より認めた春子への絵葉書（大正4年）
- 第4回 武内の証言「賀川先生の献身について」
- 第5回 武内の日記：説教メモ「春と聖書」
- 第6回 賀川の履歴書と武内の履歴
- 第7回 賀川留学前の新川尻海岸での記念写真（大正7年3月）
- 第8回 武内の見た「賀川先生の生涯」
- 第9回 「神戸イエス団教会会報 第1号」（1926・11・23）
- 第10回 神戸市生田川共同住宅完成記念写真
- 第11回 「善隣幼稚園午後の部」の沿革
- 第12回 武内の賀川宛書簡（賀川留学中の大正4年正月）（含「友愛幼稚園だより」連載）
- 第13回 武内勝「福祉の灯：兵庫県社会事業先覚者伝」
- 第14回 間島憊とイエス団友愛救済所
- 第15回 間島憊とイエス団友愛救済所（続）
- 第16回 遊佐敏彦と生田川口入所
- 第17回 井上貞蔵の「間島・武内」宛書簡（含「水平社創立」の新聞報道）
- 第18回 賀川夫妻の「台湾の旅」

(2)

- 第19回 賀川最初の中国の旅から武内宛絵はがき
- 第20回 「馬の天国」と西川のおじさんの死
- 第21回 「死線を書かぬと生活に窮する・・・あまり人に言わないで下さい」
- 第22回 賀川の眼病と阪神間への引っ越しの予告
- 第23回 武内の神戸市社会課長木村義吉氏追悼
- 第24回 武内の神戸市社会課長木村義吉氏追悼（続き）

- 第 25 回 (この号は第一回分の補充記事であったため欠如処理)
- 第 26 回 東京市社会局における「共済組合」(失業者救済)
- 第 27 回 厚生省顧問賀川豊彦と「神戸市失業者救済組合」
- 第 28 回 New York Skyscrapers (1925)
- 第 29 回 賀川春子の武内宛書簡(戦前・戦後一括)
- 第 30 回 上海基督教経済会議を終えた旅先から(1927年)
- 第 31 回 賀川第3回目の渡米「三万五千哩の旅」
- 第 32 回 四度目の米国の旅先 Little Rock から
- 第 34 回 印度の旅先からの絵葉書:タジマハール
- 第 35 回 豊彦とハルの結婚式が挙げられた教会の場所
- 第 36 回 斉木進之助・ミツル夫妻の「結婚式」
- 第 37 回 賀川豊彦独特の飾り文字!
- 第 38 回 戦時下の賀川「豊島にて稲こぎ手伝い」
- 第 39 回 三浦清一牧師と啄木の妹・光子「神戸愛隣館」に

(3)

- 第 40 回 戦時下、賀川最後の中国の旅
- 第 41 回 戦時下、賀川純基・玉井道子結婚式御礼状
- 第 42 回 大きな焼夷弾が私の家の軒先に
- 第 43 回 賀川の証言:キリストと「涙」と私の問答
- 第 44 回 中村竹次郎:武内勝先生を語る
- 第 45 回 「小さき人生の完成者」武内美邦ちゃん
- 第 46 回 賀川春子「三疊敷の食堂」「神は活く」
- 第 47 回 米国の旅 HOPI INDIANS
- 第 48 回 お宝発見「武内勝日記 A」(1)
- 第 49 回 お宝発見「武内勝日記 A」(2)
- 第 50 回 お宝発見「武内勝日記 A」(3)
- 第 51 回 お宝発見「武内勝日記 A」(4)
- 第 52 回 お宝発見「武内勝日記 A」(5)
- 第 53 回 お宝発見「武内勝日記 A」(6)
- 第 54 回 お宝発見「武内勝日記 A」(7)
- 第 55 回 お宝発見「武内勝日記 A」(8)
- 第 56 回 お宝発見「武内勝日記 B」(1)
- 第 57 回 お宝発見「武内勝日記 B」(2)
- 第 58 回 お宝発見「武内勝日記 B」(3)

- 第 59 回 お宝発見「武内勝日記 B」(4)  
第 60 回 賀川豊彦と武内勝：ふたりの役柄関係

(4)

- 第 61 回 賀川豊彦 40 代の抱負あれこれ (大正 15 年)  
第 62 回 中井一夫神戸市長、賀川に「神戸市顧問」要請  
第 63 回 開拓的事業継続に伴う苦勞  
第 64 回 眼病悪化の中「賀川服・賀川靴」普及の事など  
第 65 回 長田伝道の白倉正雄牧師招聘  
第 66 回 ブラジル伝道の旅先から絵葉書 2 葉  
第 67 回 賀川の北米への最後の旅先から (1954 年)  
第 68 回 連夜の夜行列車で「島根県伝道」に向かう賀川  
第 69 回 大阪四貫島教会復活運動  
第 70 回 この 2 書簡は「歯ブラシ工場」設立時のもの？  
第 71 回 賀川に愛された善い男「佐藤一郎」  
第 72 回 「佐藤一郎」のパートナー「佐藤きよ」  
第 73 回 神戸イエス団月報 第一号 昭和五年九月  
第 74 回 昭和 5 年 6 月 1 日現在「イエス団教会会員名簿」

(5)

- 第 75 回 「武内祐一所蔵アルバム A」から (1)  
第 76 回 「武内祐一所蔵アルバム A」から (2)  
第 77 回 「武内祐一所蔵アルバム A」から (3)  
第 78 回 「武内祐一所蔵アルバム B」から (1)  
第 79 回 「武内祐一所蔵アルバム B」から (2)  
第 80 回 「武内祐一所蔵アルバム B」から (3)  
第 81 回 「武内祐一所蔵アルバム B」から (4)  
第 82 回 「武内祐一所蔵アルバム B」から (5)  
第 83 回 「武内祐一所蔵アルバム B」から (6)  
第 84 回 「武内祐一所蔵アルバム B」から (7)  
第 85 回 「武内祐一所蔵アルバム B」から (8)  
第 86 回 「武内祐一所蔵アルバム B」から (9)  
第 87 回 「武内祐一所蔵写真」から (1)  
第 88 回 「武内祐一所蔵写真」から (2)

- 第 89 回 「河野洋子所蔵写真」から (1)  
第 90 回 「河野洋子所蔵写真」から (2)  
第 91 回 「河野洋子所蔵写真」から (3)  
第 92 回 「河野洋子所蔵写真」から (4)  
第 93 回 「河野洋子所蔵写真」から (5)  
第 94 回 大岸坦弥・とよの夫妻所蔵写真  
第 95 回 「賀川豊彦のお宝発見」最終回

(6 - 補遺)

- 補遺 1 武内勝宛文書 工藤豊一 (元毎日新聞社会部記者) 草稿  
補遺 2 武内勝宛文書 工藤豊一 (元毎日新聞社会部記者) 草稿 (第一篇)  
補遺 3 武内勝宛文書 工藤豊一 (元毎日新聞社会部記者) 草稿 (第二篇)  
補遺 4 武内勝宛文書 工藤豊一 (元毎日新聞社会部記者) 草稿 (第三篇)  
補遺 5 武内勝宛文書 工藤豊一 (元毎日新聞社会部記者) 草稿 (第四篇)

## 附録

賀川記念館の機関誌「ボランティア」のコラム「KAGAWA GALAXY」

2014 年 4 月



第 1 回寄稿分 武内勝 (1892~1966 年)

新しいコラムの美しいタイトル「KAGAWA GALAXY」は、その生涯において「星」を愛した賀川豊彦と吉田源治郎に因んで、イエス団の吉田撰氏が名付けられた言葉です。かつて「吉田源治郎・幸の世界を訪ねて」という 150 回にわたる長期連載の折に、これを使

用させていただきました（現在も <http://k100.yorozubp.com/> で閲覧可）。

もちろん「JESUS BAND GALAXY」というのも面白いですね。イエス団に連なるすべての人々が、それぞれに託された持ち場に在って「JESUS BAND GALAXY」として華やぐ！ これは、ひとりひとりがイエス団を代表し、その持ち味を存分に発揮しつつ、地の塩として人知れず輝いておられる確かな事実を言い当てていますね。

ところで、2009年には「賀川献身100年」の大きな取り組みがスタートし、新しい賀川記念館の再建も実現しました。引き続いて現在も「Core100」を中心とした幅広い協同の輪のなかで、開かれたイエス団としてその使命を果たしつつあります。新しい歴史は、常に数知れない先達たちの、神と共に生きた冒険的な働きに包まれて、促されています。

そこでこの小さなコラムでは、先駆者である賀川豊彦・ハル夫妻と歩みを共にしたイエス団草創期の先達たちの幾人かを取り出し、「KAGAWA GALAXY」としてその熱い息吹きに触れてみたいと思います。

第一回は「イエス団」の最も地味な大黒柱・武内勝・雪夫妻の名を挙げさせていただきます。賀川は1888年神戸生まれ、武内は1892年岡山生まれで、ふたりは4歳違いです。賀川が1909年に「新川」での生活（「救霊団」）を始めますが、既に武内は近くの日暮通の貝ボタン工場の工員として働いていました。

「救霊団」でのふたりの最初の出会いは1910年の夏のことですから、武内は「イエス団」の最初期からのメンバーであり、それは賀川がハルと出会う前のことです。以来ずっと——賀川がハルと結婚して米国留学中はもちろん、関東大震災の救援のため神戸を離れて以後も——武内は自らは労働紹介所の仕事を開拓しながら「イエス団」の働きの大黒柱として、その地道な歩みを貫き通し、イエス団の重責を担いつつ1966年にその生涯を終えました。

武内はその晩年、イエス団教会のメンバーの求めに応じて語られた連続講演「創業当時の回想」（10回）の口述記録を、村山盛嗣牧師が編集して成った『賀川豊彦とそのボランティア』——本書は現在、賀川献身100年記念出版として新版『賀川豊彦とボランティア』（神戸新聞総合出版センター）として一般書店で発売中——で今日まで広く読み継がれていますので、この一冊で「武内勝の世界」の概要は窺い知ることが可能です。

なおこの連続講演とは別にさらに10回の連続講演が行われており、その貴重な録音テープが発見されて、只今賀川記念館のHP（<http://www.core100.net/>）の「資料室」を検索す

れば、武内の声を聴取可能になっています。そして既に本紙で紹介済みですが、武内勝の肖像画（添付の写真）がイエス団に寄贈され、記念館の一階に掲げられています。

奇しくも「賀川献身 100 年」の記念の年には、武内夫妻の御子息・武内祐一氏が大切に保存しておられた貴重な資料（武内の日記・アルバムをはじめ大量の「賀川豊彦・ハル夫妻の武内勝宛書簡」）の閲読が許され、「賀川献身 100 年事業オフィシャルサイト」において「賀川豊彦のお宝発見」として 94 回の長期連載が可能に成りました。上記のごとくこれは現在 <http://k100.yorozubp.com/> で閲読いただいております、改めていまそれに補正を加えて「賀川豊彦の魅力」（<http://keiyousan.blog.fc2.com/>）において「賀川豊彦の畏友・武内勝氏の所蔵資料より」を連載中です。